

専門科目試験問題・解答用紙

(注意事項)

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子さつしを開かないこと。
- 2 試験時間は、午前十時～十一時四十分(一〇〇分)です。
- 3 解答は、すべてこの問題冊子の指定された箇所さつしに書きなさい。
- 4 試験開始直後に、指定の箇所かしょに受験番号と氏名を記入すること。

受 験 番 号			

氏 名

問題一

次の①～⑩の作品名または作者名・作家名を、それぞれ後ろの語群ア～ソから選んで、その記号を（ ）に記しなさい。

- ① 三大随筆とも言われる『枕草子』の作者は誰ですか。 (1)
② 鎌倉時代に書かれた『発心集』をまとめたとされているのは誰ですか。 (2)
③ 江戸時代に『雨月物語』を書いたとされるのは誰ですか。 (3)
④ 江戸時代の長編小説『南総里見八犬伝』の作者は誰ですか。 (4)
⑤ 江戸時代に『東海道中膝栗毛』を書いたとされるのは誰ですか。 (5)
⑥ 田山花袋が書いた「私小説」の名作として知られる小説は何ですか。 (6)
⑦ 雑誌『ホトトギス』に連載されていた『吾輩は猫である』の作者は誰ですか。 (7)
⑧ 群馬県出身で、「日本近代詩の父」と呼ばれる詩人は誰ですか。 (8)
⑨ 昭和時代の小説である『砂の女』で知られる作家は誰ですか。 (9)
⑩ 織田作之助の代表的な作品は何ですか。 (10)

【語群】

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|-------|
| ア | 曲亭馬琴 | イ | 式亭三馬 | ウ | 清少納言 | エ | 尾崎紅葉 | オ | 萩原朔太郎 |
| カ | 夏目漱石 | キ | 森鷗外 | ク | 上田秋成 | ケ | 安部公房 | コ | 夫婦善哉 |
| サ | 火宅の人 | シ | 夜明け前 | ス | 蒲団 | セ | 鴨長明 | ソ | 十返舎一九 |

問題二は、次のページです。

問題二

次の文章は、『竹取物語』の一節です。これを読んで後の問いに答えなさい。

その後、翁、嫗、血の涙を流して惑へど、①かひなし。あの書き置きしa文を読み聞かせけれど、「なにせむにか命も惜しからむ。誰がためにか。何事も用もなし」とて、薬も食はず。やがて起きもあがらで、病み臥せり。中将、人々引き具して帰り参りて、かぐや姫を、え戦ひとめずなりぬること、こまごまと奏す。薬の壺に御文そへて参らす。ひろげて御覧じて、いと②あはれがらせたまひて、物もきこしめさず、御遊びなどもなかりけり。大臣、上達部を召して、「いづれの山か天に近き」と問はせたまふに、ある人奏す、「b駿河の国にあるなる山なむ、この都も近く、天も近くはべる」と奏す。これを聞かせたまひて、

あふこともなみだにうかぶ我が身には死なぬ薬も何にかはせむ

かの奉る不死の薬壺に文具して御使にc賜はす。勅使には、つきのいはがさといふ人を召して、駿河の国にあなる山の頂に持てつくべきよしd仰せたまふ。峰にてすべきやう教へさせたまふ。御文、不死の薬の壺ならべて、火をつけて燃やすべきよし仰せたまふ。そのよしうけたまはりて、土ども③あまた具して山へのぼりけるよりなむ、その山を「ふじの山」とは名づけける。④その煙、いまだ雲の中へ立ちのぼるとぞ、いひ伝へたる。

(注1) きこしめさず||何もお召し上がりにならない。

(注2) 御遊び||音楽の演奏。

(注3) 上達部||かんだちべ。公卿。

(注4) つきのいはがさ||調(つき)氏の「いわがさ」という人。

問一 傍線部 a 「文」、b 「駿河」、c 「賜」、d 「仰」の、文中での読みを記しなさい。

() a) () b) () c) () d) ()

問二 傍線部①「かひなし」、②「あはれがら」、③「あまた」を現代日本語に訳しなさい。

() ①) () ②) () ③) ()

問三 傍線部④「その煙」の「その」が指す内容を簡潔に説明しなさい。

() ()

問四 先の『竹取物語』の一節に基づき、富士山の名称の由来を簡潔に説明しなさい。

() ()

問題三

ことばと文化の関係について、あなたの考えを述べなさい。字数は五〇〇字以上六〇〇字以内とします。

600 500 400 300 200 100